

第94回

全国安全週間

SLOGAN

持続可能な安全管理 未来へつなく安全職場



安全管理せな
あかんよ
!!

令和3年

7/1▶7

令和3年 準備期間

6/1▶30

宮川大輔

第94回全国安全週間について

全国安全週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という基本理念の下、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的に、これまで一度も中断することなく続けられ、今年で94回目を迎えることとなりました。

この間、事業場においては、労使が協調し、労働災害防止に向けた弛まぬ取り組みを展開してこられました。この努力により労働災害は長期的には減少しており、令和2年の労働災害による死亡者数は3年連続で過去最少となりました。

一方、令和2年の休業4日以上労働災害による死傷者数は、高齢者の労働災害、転倒災害、「動作の反動・無理な動作」による労働災害が増加していることに加え、新型コロナウイルス感染症の罹患による労働災害により、平成14年以降で最多となりました。

こうした状況を踏まえ、皆様の職場におきまして、「持続可能な安全管理 未来へつなぐ安全職場」のスローガンのもと、労働災害防止に向けたより一層の取り組みをお願いします。

また、安全活動の実施にあたっては、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、①密閉空間（換気の悪い密閉空間である）、②密集場所（多くの人が密集している）、③密接場面（お互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる）という3つの条件が同時に重なる場を避け、職場内外での感染防止行動を徹底しつつ、取り組んでいただくようお願い申し上げます。

主唱 厚生労働省、中央労働災害防止協会

協賛 建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会

港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会

毎日の笑顔は
やっぱり安全管理からやね！
みんな元気な職場が一番！



職場の安全、全国安全週間に
関する情報はこちらでも発信しています！

厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/index.html>

中央労働災害防止協会

<https://www.jisha.or.jp/>

職場のあんぜんサイト

<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/>

あんぜんプロジェクト

<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzenproject/index.html>

職場の安全、全国安全週間に
関する情報はこちらで検索！

厚生労働省 安全衛生

検索

中央労働災害防止協会 安全週間

検索

職場のあんぜんサイト

検索

詳しくは、最寄りの都道府県労働局または労働基準監督署にご相談ください。

厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署

F e e l R i s k !

～ 危険を感じとれ ～

全国安全週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という基本理念の下、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的に一度も中断することなく続けられ、本年度で94回目を迎えます。

昨年からの新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る対応については、内閣総理大臣からの緊急事態宣言が発令されたことにより、これまで経験したことのない接触機会の削減などを求められています。

この間、休業要請による事業活動の停止など経済への影響が深刻な事態となっており、本年に入ってから3度目の緊急事態宣言が一部の都市に発令されるなど、今後も継続して感染症の拡大防止対策を最優先に取り組む必要があります。

さて、令和2年の神奈川県下の労働災害は、37人の死亡災害が発生し、前年比13人増加したことにより、増加件数が全国ワースト1となり、休業4日以上の死傷災害も7,617人と3年連続して増加する結果となりました。

川崎市内においても医療機関や社会福祉施設における新型コロナウイルス感染症の集団感染が発生したほか、高年齢労働者の労働災害が増加したことなどにより、1,061人の死傷災害が発生し、発生件数が20年前の水準まで後退して多発している状況に危機感を強めなければなりません。

本年は、

「持続可能な安全管理 未来へつなぐ安全職場」

をスローガンに7月1日から7日まで全国安全週間が展開されますが、事業場内外での感染症防止対策に加え、安全管理水準を後退させることなく、労働災害防止の取り組みを推進いただきますようお願いいたします。

近年発生している労働災害は、発生原因に労使双方の危険意識が欠如していると考えられるものがありますので、職場に潜む危険を正しく理解し、労働者に感じてもらうことが重要となります。

労働災害防止の取り組みについては、安全を最優先させる組織文化となるよう、労使協力して、安全文化を継承し、労働災害の減少に寄与いただきますようお願いいたします。

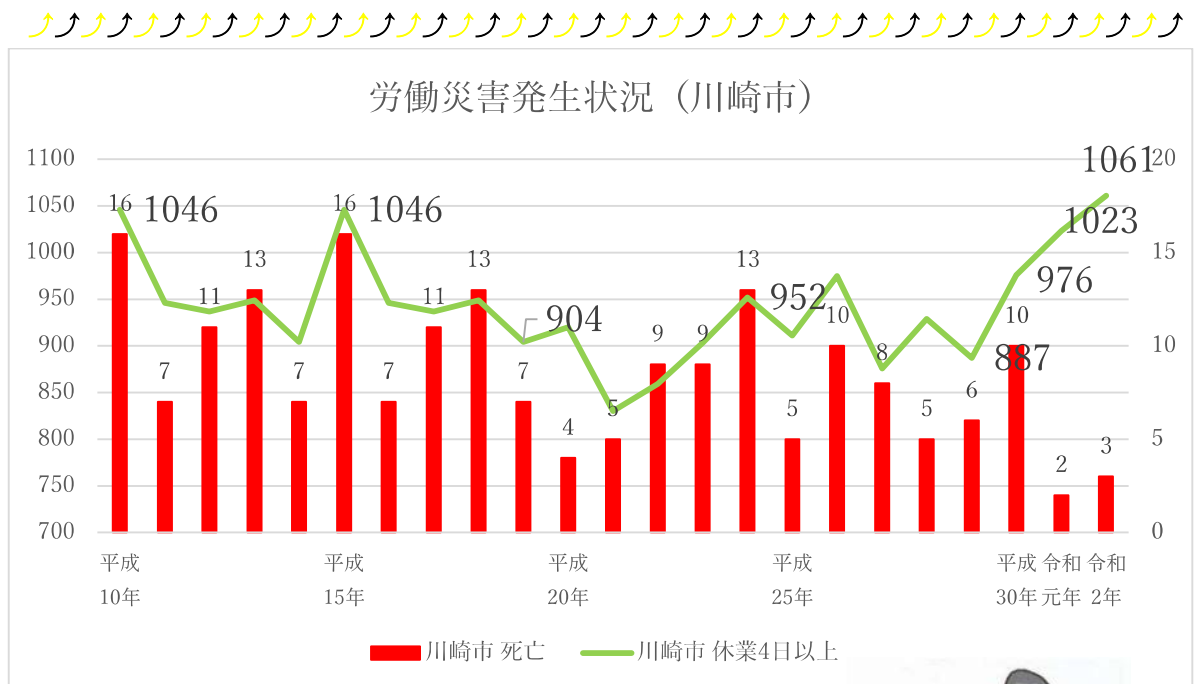
令和3年6月1日

川崎南労働基準監督署長

川崎北労働基準監督署長

川崎市内の労働災害は、3年連続増加！！

～ 労働災害発生件数は、20年前の水準 ～ 川崎南・川崎北労働基準監督署

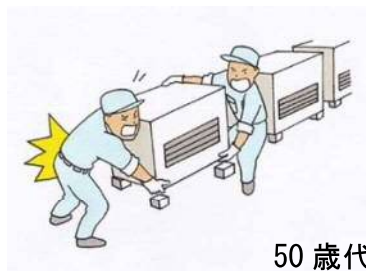


事故の型ワースト3

転倒	225 件 (21.2%)
動作の反動・無理な動作（腰痛）	218 件 (20.5%)
墜落・転落	170 件 (16.0%)

3つの事故の型で57.7パーセントを占めています。

転倒して大腿骨骨折！休業6か月！こんな労働災害が発生しています。



年齢別

60歳代以上	237 件 (22.3%)
50歳代	276 件 (26.0%)
40歳代	227 件 (21.4%)

50歳代以上の労働者が48.3パーセントを占めています。

高齢労働者の発生率が高く、重症化しやすい特徴があります。

労働災害防止の取り組みは、形骸化していませんか？

危険の捉え方、対処方法について考えてみましょう！

Feel Risk !

～ 危険を感じとれ！ ～

転倒災害は、あらゆる産業で発生しており、増加傾向にあり、高年齢労働者も多く負傷しています。

「危ないとは思わなかった」、「けがをするとは思わなかった」と多くの被災者が話しており、事業者も「危険はなかった」、「危ない作業ではない」など労使双方の危険認識が欠如していたことが労働災害の減少しない一因と考えられます。

一方で、転倒災害防止のための危険体感を取り入れ、体操、ストレッチなどの労働者の行動や認識に着目した安全衛生教育を行うなど安全意識を高揚させる取り組みを行い、数十年にわたり無事故・無災害を継続している企業もあります。

これまで、設備の本質安全化の推進により、安全柵や手すりの設置、安全装置の追加など職場環境は安全な職場に改善されているものと考えられますが、危険に触れ合う（感じる）ことが少なくなった分、労働者の安全意識は、低下しているのではないのでしょうか？

「労働災害が発生していないから安全！」と危険な作業を行わせている事業者、安心して危険な作業を行っている労働者がいるのではないのでしょうか？

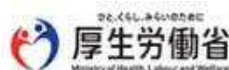
労働者の危険な行動は、過去に失敗したことがないという経験則に基づき、行われていることがほとんどだと思いますが、作業方法や手順が定められていても守られていない、見過ごされている実態があり、これらを監視する視点が事業者や安全管理を担当する方にも欠落しているものと考えられます。

職場に潜む危険については、的確に把握して関係労働者が共通認識を持つことが重要となりますので、危険に対する感受性を高めるために

「**Feel Risk !**」を提案します。

危険をどのように労働者に感じさせるかは、事業者や安全管理を担当する方の熱意と創意工夫に委ねられています。

安全衛生情報はこちらから



職場のあんぜんサイト

